

7. 北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北陸)	◎	コンビニ（店舗管理）	来客数の動き	・3か月前は第3波に加え大雪であったため、相対的に良いというだけである。上旬はまずまずの状況だったが、中旬以降の来客数は激減している。駅前や幹線道路に立地する店舗は特に顕著である。
	○	商店街（代表者）	お客様の様子	・比較的天候に恵まれ、入込客が多い。新型コロナウイルスの感染が気になる状況が続き、飲食関係の見通しが立たない。大手デパートの物産展は相変わらず盛況である。
	○	コンビニ（店長）	来客数の動き	・売上は数か月前から下げ止まっており、徐々に戻ってきている。前年比の88～92%で推移しており、前年から30%減少していた3か月前に比べると回復してきている。しかし、ここ1か月で回復は足踏み状態になっているようにも感じている。家賃や社員給与などの固定費を支払うと単月で赤字が続いており、経営的には非常に厳しい状況である。
	○	コンビニ（営業）	来客数の動き	・週末や夕方、夜間の客の動きが良くなってきているように感じる。
	○	家電量販店（本部）	単価の動き	・洗濯機、冷蔵庫、エアコンなど単価の高い商品群が比較的好調である。来客数は厳しいが、それを補っている。
	○	自動車備品販売店（役員）	来客数の動き	・来客数は前年から10%回復しており、明らかに上がってきている。それに伴い売上も回復しており、コロナ禍前に近い状況で、店内回遊時間も延びている。
	○	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・1週目までは例年並みの集客だったが、緊急事態宣言の発出や県内の新型コロナウイルス感染者数が増えるにつれ来客数が減り、例年の50～60%ほどの来客数となっている。
	○	通信会社（営業担当）	販売量の動き	・前月に引き続き、3G回線からの乗換えに対し割引額が増えているため、来客数、販売量共に伸びている。
	○	通信会社（役員）	販売量の動き	・通信、放送共に契約者数が前年同期比を上回っている。特に放送において新メニューが好評で、契約者数の増加につながっている。
	□	一般小売店〔事務用品〕（店員）	販売量の動き	・営業案件がなく、店頭への来客数が少ないために売上は低調なままである。
	□	スーパー（仕入担当）	販売量の動き	・販売量に大きな変化はみられない。生鮮食品や総菜が好調で、加工食品が不調で推移している。
	□	コンビニ（経営者）	単価の動き	・単価も販売量も変わらない。
	□	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・都市部で新型コロナウイルスの感染拡大が続いており、来客数にむらがある。
	□	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・前月からせっかく上向いてきた売上が、新型コロナウイルス第4波の影響で悪化してしまっている。
	□	家電量販店（店長）	販売量の動き	・目立つ商品などはないが、平年並みの販売量である。
	□	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・前年のコロナ禍よりは販売量が増えているが、3か月前と比べれば余り変わらず、良くなったとはいえない。
	□	乗用車販売店（役員）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大による影響を受けている業種もみられるが、自動車の販売に関しては比較的順調に推移している。
	□	住関連専門店（役員）	販売量の動き	・厳しい環境が続くなか、耐久消費財全般やステイホームに関連する商材に動きが見られるものの、市場全体を見渡すと決して動きが良いとはいえない。
□	その他専門店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・とにかく暇の一言である。もしかしたら、どん底になりつつあるのかもしれない。	

□	その他小売 〔ショッピング センター〕（統 括）	販売量の動き	・月初めは県内外の新型コロナウイルス感染者数が抑えられていたため来客数は回復傾向であり、新生活実需品などの動きも良かった。しかし、下旬頃には県外での緊急事態宣言の発出、県独自の警戒レベルの引上げ、隣県でのまん延防止等重点措置などが出て、感染者数が増加傾向になるにつれて来客数が減少し、販売量も低調になりつつある。
□	スナック（経営者）	来客数の動き	・3か月前の1月が大雪であったことと18日から月末まで休業していたので比較はできないが、連日の新型コロナウイルスの感染状況で、常連客も遠のいて四苦八苦しており、事業の継続を願っている状況である。
□	観光型旅館（経営者）	販売量の動き	・まん延防止等重点措置や緊急事態宣言などコロナ禍のなか、売上は一昨年から約75%減少している。
□	観光型旅館（スタッフ）	来客数の動き	・前年同期比で総売上は114%と上回っているが、一昨年比では48%の水準である。
□	都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・新型コロナウイルスまん延防止等重点措置が発出され、会食によって感染が広がっていると再三報道があるため自粛する客が多く、最低な売上が続いている。厳しい状況である。
□	通信会社（店舗統括）	販売量の動き	・来客数が大幅に減っているというわけではないが、販売に結び付いていない。
□	その他レジャー施設〔スポーツクラブ〕（総支配人）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染再拡大の予兆があり、客も当社も様子見しているところがある。体験利用者や新入会の会員、1日の利用者数に伸びがない。
□	住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・今月も目標どおりの仕事ができています。イベントの集客はコロナ禍でありながら、予定以上の来場があった。自粛も疲れたようで、積極的な活動が必要と感じている。
□	住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・業種によって景気の好不調に差がある。厳しい経済状況ではあるが、客は確かに動いている。体力のある客を獲得しようと、ますます競争が激しくなっている。
▲	商店街（代表者）	来客数の動き	・デパートのリニューアルから1か月がたち、その効果も収束気味なのか、街の人は少なくなっている。遅れてリニューアルした食堂街も、新型コロナウイルス感染者数の増加で、今一つ集客に勢いが無い。
▲	一般小売店〔精肉〕（店長）	来客数の動き	・食品売場は客がそこそこ来ているが、服飾売場などの客が見込めない分、来客数は少ないように感じる。
▲	一般小売店〔書籍〕（従業員）	来客数の動き	・今月の中旬以降、来客数は激減し、販売量も大きく落ち込んでいる。
▲	百貨店（売場主任）	来客数の動き	・4月中旬に県が感染拡大警報を発出して以降、外出を控える動きが顕著になり、来客数が減って売上も低迷している。4月上旬までは一昨年の売上実績を連日超えていたが、中旬以降失速し、月全体では前々年比では9%減少の見込みである。
▲	百貨店（販売促進担当）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染拡大が地方でも深刻になり、外出自粛の傾向が強い。今まで食品や日用品などの必需品は影響を受けにくかったが、連休を前にして影響が出始めている。
▲	百貨店（販売担当）	お客様の様子	・ビジネス関連商品の動向が非常に悪い。特にメンズでは、3～4月に大きく発生するスーツ、シャツ、ネクタイなどの需要が、この春はほとんど動きがない。リモート化に加え、出張数の大幅減少で新調する必要性がなく、客の要望が低価格化に進んでいることも更に悪化させている要因と考える。新型コロナウイルスの影響で旅行が減り、バッグやジャケットなどの旅行関連商品の動きも非常に少ない。生活必需品やアウトドア商品は、弱いながらも需要がある。
▲	スーパー（総務担当）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの終息が見えない状況では、良くなるとは考えられない。
▲	スーパー（店舗管理）	来客数の動き	・販促強化日だけでなく、平日の流動客が減少している。そのため買上点数も落ち込み、単価も上がらない状態が続いている。追い打ちを掛けるように緊急事態宣言が発出されたため、更に来客数は減少するとみている。

		タクシー運転手	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染が収まらず、上昇傾向にある。当県では飲食店を中心に営業時間の短縮の要請が始まるようである。外出を始めとして、夜の繁華街に行かない傾向になっており、売上は減少している。
	▲	通信会社（職員）	来客数の動き	・緊急事態宣言によって、一部営業活動にも制限が出てきている。
	▲	美容室（経営者）	お客様の様子	・期待していたワクチン接種がなかなか始まらず、今後の接種スケジュールもはっきりしないことから、高齢者を中心に来店を控える傾向である。
	▲	住宅販売会社（従業員）	来客数の動き	・外出を自粛する傾向があるため、客の動きが鈍いと感じる。
	▲	住宅販売会社（営業）	来客数の動き	・3月に戻りかけていた客足が、4月に入り鈍ってきている。
	×	商店街（代表者）	来客数の動き	・今年は桜の開花が早かったことと、4月4日は雨だったため、4月3日で花見シーズンが終了した。その後は新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、来客数の減少が続いている。休業していた前年から比べると良いのは当然だが、一昨年から比べると相変わらず売上は半分以下である。
	×	一般小売店〔鮮魚〕（役員）	販売量の動き	・前年と比較すればさすがに良くなっているが、一昨年から見れば半分以下である。特に4月に入ってからは売上が顕著に落ちてきている。緊急事態宣言が原因である。都市部で発出されれば、地方にも当然その影響が出る。
	×	一般レストラン（店長）	来客数の動き	・当県も飲食店への営業時間短縮の要請が出ている。このところ夜の売上はかなり少ない。
	×	一般レストラン（統括）	お客様の様子	・関西や首都圏において新型コロナウイルスの感染が拡大し、ゴールデンウィーク直前で各自治体からの自粛要請などが出たことで、消費者の外出や外食をしたいというマインドが急激に低下している。この状態はゴールデンウィーク明けまで続き、新型コロナウイルスの感染が収束しない場合は、長期化すると考える。
	×	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染状況の悪化に伴い、出張などのキャンセルが出てきている。ゴールデンウィークの予約状況もほぼゼロである。
	×	タクシー運転手	来客数の動き	・相変わらず出張する人の出入りが少なく、ホテルからの仕事も非常に少ない。駅からの乗車も少ない。
	×	テーマパーク（役員）	来客数の動き	・国の緊急事態宣言やまん延防止等重点措置などにより客の移動や人流が減少している。キャンセルなども発生しており、3か月前と比べて大きく客が減ってきている。その影響で休業日が増えている。
企業 動向 関連 (北陸)	◎	*	*	*
	○	食料品製造業（経営企画）	受注量や販売量の動き	・家庭消費向け中心の市販用分野は引き続き堅調である。外食向けを始めとして苦戦してきた業務用分野だが、テイクアウト需要にはまるなどプラス材料も目立ち始め、業務用分野全体でも前年を上回りそうな勢いである。
	○	精密機械器具製造業（役員）	受注量や販売量の動き	・ここ2～3か月の売上状況は、季節要因を除いても増加傾向にある。また、前年同時期と比べても伸びている状況である。しかし、ちょうど発出された緊急事態宣言により、この後どうなるか不安は大きい。
	○	通信業（営業）	受注量や販売量の動き	・緊急事態宣言が解除された3月以降は、各業種において設備更改等が活発な動きになっており、景気が上向いていると考える。また、新型コロナウイルスの影響により経営が厳しい飲食業も徐々に復興しつつあり、受注増加の傾向である。
	○	広告代理店（経営者）	受注量や販売量の動き	・Webに関わる業界においては、オンライン化の必要性などにより、案件数が増えていると感じる。しかし、県や国単位での動きによっては大きな売上減少につながるとみているため、予断を許さない状況である。

	○	税理士（所長）	取引先の様子	・建設業は非常に好調な業績が続いている。受注残が多く、労働者の人日単価、1日当たりの売値が上がってきており、建設工事の利益率が非常に改善してきている。設備工事も含めて、建設業全般が好調ではないかと考える。製造業も徐々に回復してきている。依然として厳しいのは、飲食業や観光業だが、製造業も動き始め、全般として明るいところが出ているのではないかと考える。
	□	化学工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・売上高は変わらずに推移している。
	□	プラスチック製品製造業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染及び自動車業界の半導体不足の影響が継続しており、回復に足踏みの状態が続いている。
	□	建設業（経営者）	それ以外	・当社のメイン事業の公共工事はそれなりに発注されており、受注もしているが、歓楽街は相変わらずひっそりしている。全体としては景気は下げ止まりしている。
	□	輸送業（役員）	取引先の様子	・新型コロナウイルスによる影響がある。
	□	不動産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・同業者の話では少しいろいろな動きが出ているということで、悪いということではなく、変わらないと考える。
	▲	金融業（融資担当）	取引先の様子	・緊急事態宣言により、小売業者は更なる減収が予想され、卸売業を始めとする様々な取引先への影響が大きくなる。行政の支援策に手詰まり感もあり、融資支援メニューも少ない。これまで1年しのいできたが、先が見通せない取引先が増加している。
	▲	司法書士	取引先の様子	・定時株主総会の議事録作成の依頼では、役員報酬を前年度より減額している会社が多い。しかし、役員報酬は一応支払われている。
	×	—	—	—
	◎	—	—	—
雇用 関連 (北陸)	○	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・新規求人が微増している。
	○	職業安定所（職員）	求職者数の動き	・街中に人出が増えてハローワークの利用者も増えたが、今後、街中への外出制限が進めば、また減ると考える。
	□	人材派遣会社（役員）	求職者数の動き	・年度初めだが、新規求人がほとんどみられない。
	□	新聞社〔求人広告〕（営業）	周辺企業の様子	・新型コロナウイルスの動向に左右されるところが多い。感染者数が増えてきた今、催事やイベントの中止があり、良くない状況である。
	□	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・今月も求人広告の出稿は介護、清掃など一部業種に限られており、メーカーやサービス業などの出稿の動きは鈍い。
	□	民間職業紹介機関（経営者）	求人数の動き	・前年より求人数が30～40%減少しており、まだ復活の兆しがない。
	▲	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・求人数が伸びない。
	×	—	—	—